

労使交渉で決める時代＝労働組合

一人でも多くの仲間を迎え入れ組織拡大を

組織拡大月間スタート

国交職組は、4月18日（日）の地本委員長・中央執行委員合同会議で、5月10日～6月18日を組織拡大取組強化期間とする決定をしました。本日から、全国各地地方整備局の仲間が「国交職組に入ろう！」と勧誘活動を展開しています。

本号では、福田委員長代行はじめ、上部団体からのメッセージ等を紹介し、組織拡大に向けた熱い想いを固めていきたいと思えます。

わたしたちの「国交職組に入ろう！」の一声が、明るく働きがいのある職場を実現するために決定的に重要です。そしてそれは、真面目に働く者が報われる社会を実現する下支えにもなります。

公務職場でも労働組合の役割がますます重要になる今、あなたとわたしの一声、一歩は、未加入職員に必ず届きます。ともに頑張りましょう！

組織拡大は要求前進の鍵

国土交通省職員組合 委員長代行 福田真司

組合員のみなさん、政権交代に伴う政策転換や運営上の見直しで、日々奮闘されていることと思います。4月から委員長代行となりました福田真司です。

国交職組は、職場実態と組合員の声を省当局に伝えるとともに、国政のど真ん中に届け運営に反映させるため、関係各方面の協力をいただき、精一杯の取組を展開しています。

過日実施した民主党阿久津副幹事長への要請はそのひとつで、手順を大切にしながら分権に伴う組織見直しと地方整備局職員の雇用問題について、国が責任をもって措置するよう、政権与党として最大限の努力を求めてきたところです。

わたしたちの要求や主張が道理の通ったものであればあるほど、組合員の期待に応えるため、それを確実に実現するための「力」と「行動」が必要です。端的に言えば、組合員数を増やし、組織率を高め、関係方面への影響力を大きくすることが必要不可欠となっています。

国交職組は、5月10日～6月18日を組織拡大の取組強化期間と位置付け、組織をあげて全組合員参加の下、全ての職場で「国交職組に入ろう！」と呼びかけを開始しました。

あなたの一声が、あなたの一歩が、国交職組を大きく、強くします。そして、それは、あなたとわたしの要求を大きく前進させる鍵となります。ともに頑張りましょう！

2010年5月10日



国公連合の組織拡大を

公務労協 議長 中村 譲

民主党を中心とする政権下、協約締結権をはじめとした労働基本権の回復が目の前です。

協約締結権が付与されると、人勸制度による賃金・労働条件決定システムが労使交渉による決定システムにかわり、また、その結果は私たちの組織力、交渉力によって大きく左右されることになります。

国レベルの交渉当事者は、当局側が中央人事行政機関、組合側は国公連合となり、この交渉結果は公務労協構成組織の交渉にも影響を与えると想定されます。

このため、国公連合の組織強化・拡大が急務となっており、公務労協は「組織拡大センター」を設置し、組織を挙げて取組を進めています。

国交職組の組織拡大と合わせ、国公連合の組織拡大に全力を挙げましょう。



難局を乗り切るため組織拡大を

国交職組 九州地本委員長 原 賢哉

新政権となり、国土交通省では「コンクリートから人へ」、「政治主導」、「予算編成の透明化」をキーワードに事業の見直しが行われ、大幅な予算削減、新社会資本整備総合交付金の統合新設など、仕事のやり方に大きな変化を求められてきます。

また、定員削減による限られた職員で従来以上の業務執行を行っている状況下で、更に業務委託及び非常勤職員、或いは公用車の削減が実施されるなど、我々の職場を取り巻く環境は、ますます厳しい状況へと向かっています。

処遇においては若年勸奨の廃止による人事の停滞により、昇格等処遇の遅れが懸念されます。

今後議論の本格化が予想される地方出先機関の廃止問題、新人事評価制度の本格実施など、様々な課題が山積する今こそ国土交通省職員組合に集結し、この難局を乗り切るために組織の拡大に取り組みしましょう。

※地本委員長の決意表明は、次号以下リレー方式で続く。



■ 労使対応関係イメージ

中央 国公連合 VS 中央人事行政機関
※賃金労働条件の骨格部分すべて

↓
各府省 国交職組 VS 国交省
※法で各府省大臣に委任される事項

↓
地方 国交職組地本 VS 地方整備局
※任命権者に委任される事項

↓
事業所 国交職組支部 VS 事務所等
※時間外（36）協定ほか

★労働組合はますます重要になる

自律的労使関係とは？

「自律」とは、他からの支配や制約を受けず、自身で立てた規範に従って行動することです。

「自律的労使関係」とは、公務員における、第三者（人事院勸告制度）に任せることなく、労使双方の責任の下、交渉・合意を基本とした共同決定による関係に見直すことを意味します。

国交省当局が、超勤上限目安時間の設定において、「他律的業務の上限目安年間720時間」を全ての職場・業務に適用していることは、この意味では「自律的」ではありません。

自律的労使関係では、当事者である労使双方の責任が厳しく問われます。「足は職場に、眼は世界に、胸に祖国を」のバランス感覚も問われます。言葉は、最後の同盟会長・宇佐見忠信氏のもの。

職場のために仲間のために

国公連合 中央執行委員長 森永 栄

国交職組の仲間の皆さん、連日の激務に組合活動に大変お疲れ様です。

昨年夏の政権交代以降、私たちの職場に大きな影響を与える改革が、政治主導のもとで大胆に進められています。このような中であって、私たちは「良質な公共サービスを国民に提供していくために何をなすべきか」を考えなければなりません。

そのためには、風通しの良い職場環境作りがまず重要であり、その帰結点は「自律的労使関係制度の確立」にあります。

国公連合では、公務労協と連携し、公務員制度改革の一環として進められる「労働基本権の回復」を現実のものとし、私たちの賃金・労働条件は労使交渉によって決めることや、事務のあり方を真摯に協議できる仕組みを作ること等、今後の制度設計に向けて、より一層、運動を強化していく必要があります。

国交職組の皆さんにおかれましても、将来を見据えて、多くの仲間作りのための運動を展開していただきたいと思います。私も皆さんと協力しながら、様々な改革に対して主張すべきはしっかり主張し、中央台における運動に全力で取り組んで参ります。

職場のために、仲間のために、一人ひとりが行動しましょう！



4月20日、霞が関での組織拡大のピラ配布行動であいさつする森永委員長（中央）
森永国公連合委員長は、公務労協「組織拡大センター」のセンター長でもある。

国公連合とは

国公連合は、国家公務員・国公関連の職場に働く仲間11万人の組織です。

<構成組織> 国税労組、国公総連、政労連、全駐労、税関労組、国交職組、国会職連（オプ加盟）

公務労協とは

公務労協は、連合に加盟する公務・公共サービス関連の労働組合が結集した組織です。加盟組織の組合員数は170万人です。

<構成組織> 自治労、日教組、国公連合、都市交、全水道、林野労組、全印刷、自治労連、全造幣、JP労組（オプ加盟）、日高教（オプ加盟）

国交職組を全面的に支援します



日本労働組合総連合会 会長 古賀 伸明

国交職組の仲間の皆さん、常日頃から連合運動に参加いただきありがとうございます。

連合は、結成以来20年間一貫して、公務員の労働基本権回復と自律的労使関係制度確立を目指し取り組んできました。

民主党を中心とする政権発足によって、わたしたちの声は国政のど真ん中に届くようになりました。現政権は、公務員の賃金・労働条件も労使交渉で決定すべきだの姿勢を明確に示しています。

これは、連合とそこに結集する皆さんが一緒になって実現してきた変化です。その先にある成果を活かすため、国交職組の組織拡大が決定的に重要です。

連合は、国交職組の組織拡大の取り組みを全面的に支援します。ともに頑張りましょう。

お父さん、賃上げて何？

4月29日、第82回中央メーデーに子供を連れて参加しました。

式典会場は満杯。鳩山首相、長妻厚労相が参加しあいさつしました。首相の参加は9年



ぶりとのことですが、国民の大多数は労働者なので、当然ですよ。

5歳（年長組）の子供（名前は「太郎」と言います。）は、ざわついた会場がお気に入り。何だって大好きなミニSLにタダで乗れるし、ウサギやヒツジに触れるし、ヨーヨーを教えてもらえるし、とても喜んでいました。

国公連合のブースでは、全農林の仲間が農業を取り巻く実情を説明するとともに、来訪者がクイズに答えると美味しい米粉菓子（ラスク）をプレゼントし好評を博していました。

拉致問題解決を訴えるブルーリボンとエイズに偏見を持っていないことを示すレッドリボンを胸に付けて、家まで帰りました。これもお気に入りだったみたいです。

「賃上げて何？」と聞かれ、「お父さんの給料が増えること。そしたら太郎にもおもちゃを買ってやれるぞ」と説明したもだから、「賃上げ賛成」とのこと。国交職組の旗もしっかり持って来て、頼もしい自慢のせがれです。

書記長 加藤 順一

編集後記 ♠ ♥ ♣ ◇ ♠ ♥ ♣ ◇ ♠ ♥ ♣ ◇ ♠ ♥ ♣ ◇ ♠ ♥ ♣ ◇

■組織拡大の取組が始まった。連合をはじめ、多くの仲間が国交職組の取組を応援してくれている。「正しいことを言う奴は強くなければならない。そうでなければそれを信じてついてきた仲間の期待を裏切ることになるから。」……尊敬する先輩の言葉だ。私自身、そんなに強い訳ではないが、仲間を実感していれば、何故か怖いものが少なくなる。新しい仲間が増えれば、きっと新しい強さも手に入れることが出来ると確信している。

■普天間基地問題で鳩山政権が迷走している。（ように見える）外交・安全保障問題は、相手のある国益確保の課題である。掌を返したような対応は現実的ではない。多くの国民もそれを知っている。国民を信頼し骨太の議論をして欲しい。そうであるならば、政権交代を選択した国民は、決して見限ったりしない。（J）